

alaクルーズ

広報第21号

平成20年10月1日

アーラまつり

7月27日（日）アーラ祭りが開催され、美術ロフトにて「つくろうマイハンカチ」と「いろえんぴつ教室」が実施されました。来場者は157人でした。子どもを対象に、真っ白なハンカチにマジックでふちどりをして絵の具で色を塗っていきます。なにを描こうか迷って白いハンカチを見つづける子や、すぐ描き始める子、下絵をハンカチの下にひいてなぞる子、いろいろです。色使いも自由で思い思いに青や赤や黄色を入れていき、オリジナルの作品に仕上げます。つい我が子の作品に口や手を出してしまう親、ハラハラしながらも自由にさせている親。そんな家族を見守りアドバイスやお手伝いをするクルーズスタッフ。大人目線ではなく子どもの気持ちに近づいていっしょに楽しんでいました。描き終わった作品をドライヤーで乾かしてもらい、満足げにお母さんに見せに行く姿がスタッフの喜びになったことでしょう。

「面白かった」「楽しかった」の声が美術ロフトだけでなく、家に帰って家族に話す姿が眼に浮かびます。海外から日本にきていた方の参加もあり大盛況でした。また、同ロフトにて「いろえんぴつ教室」が30分交代で催されました。川辺在住の山口さんの指導によるもので、今日はスイカを描くということで1人ずつに配られました。スイカにつられた子もいる(?)のか受付はすぐいっぱい。しかし、いざ描いてみるとなかなか難しく先生に質問したりお母さんに聞いてみたり、目の前にあるスイカが早く食べたーい！と心の葛藤もほほえましい姿です。この場もアーラクルーズのメンバーが準備やお手伝いに頑張っていました。会場にはスイカを丸ごと皮だけ剥いて桃のように見せた作品もあり驚かされました！描き終わった子供たちは、さっそくスイカにかじりつきアーラの夏を楽しんでいました。クルーズスタッフの皆様お疲れさまでした。今回の喜びと達成感とちょっぴりの反省を次回に生かせたら、又、子どもたちの笑顔が見られることまちがいなし！でしょう。



どうしたら
いいの？



上手にできるかな



Arts Volunteer Forum 2008

Arts Volunteer Forum 2008



第2回アートボランティアフォーラム2008が8月30日に開催されました。当日はあいにくの雨にもかかわらず、他団体の参加者12名を含め39名が参加し、活発な意見交換が行われました。フォーラムは午前中、映像シアターで館長により、「文化ボランティアが燃え尽きないための処方箋」と題した基調講演が行われました。「各人が義務感にとらわれず、もっと自由に楽しくやって良いじゃないか」と述べられ一休禅師の詠まれた「わけ登る麓の道は多けれど同じ高嶺の月をみるかな」の歌を紹介し、「同じ目標を持って進むならばその途中は異なってもよい」と話されました。そして最後には、「これまでのやり方を見直し改めていこう！自分革命が大切」と締めくくられました。参加者はそれぞれにボランティアに対する思いを新たにしたことでしょう。昼食の後、3つのセッションに分かれて交流会議が開かれました。日頃の活動の中での具体的な問題についてディスカッションしました。最後に全体会議で各グループごとに発表を行い、質疑応答では活発な意見も出て充実した会議となりました。まだまだ言い尽くせなかった事もあるようでしたが、時間となり、閉会となりました。これを機会に更なる交流に発展していければ素晴らしいと思います。



section1 : ホールスタッフの交流会議が18名の参加で行われました。まず問題点として、イベント当日のスタッフ集めに苦労する、注意したお客さんに文句を言われる、劇場事務局からの細かい指示がないゆえにスムーズに誘導出来ない時もある、など、いろんな意見が出ました。解決策として、スタッフは制服を着用しているのだから毅然とした態度で接したほうがよい。それでも聞かない人には会館の方に注意してもらおう。楽しく参加してもらうためにスタッフ間の交流会を計画したり、年一回の研修会を行っているところもありました。基本姿勢は崩さず館長のお話のように、おおらかな心のボランティアであり続け、やり遂げたという達成感をみんなでわかちあいましょと笑顔で交流会は終わりました。

section2 : 自己紹介と活動報告から始まりました。参加したのは岐阜市文化センターとNPOだけとよ、alaクルーズの3グループで、全体で9名の参加でした。“楽しい事業あれこれ”と題してユニークな活動報告を聞きながら、「若い人の参加が少ない、どうしたらよいか」という問題点も出ました。NPOだけとよでは、作曲講座やプロデュース講座など若い方が興味を持つような講座を設け、そこで参加を呼びかけるといった工夫をしているという発表がありました。岐阜市文化センターではもともと映画好きで集まっているので減りもしないが増えもしないということでした。短い時間の中、「良い意見が出て有意義だった」という声で終了しました。



section3 : 自己紹介、広報の発行状況等を、alaクルーズ、NPOだけとよ、ふそう文化夢応援団、岐阜市文化センターという順に行き、各問題点など出し合いました。中でも一番大きな問題は配布に対してでした。一人でも多くの人に見てもらい、活動内容を知っていただきたい。それが会員増加に繋がれば等、又、読者対象は、会員それとも一般市民？それによって掲載内容も違ってくるのではないかと。楽しく活動してる写真などを見てもらえれば…事後報告の記事だけでは…。考えさせられる意見が交わされました。



星乃もと子先生を囲んで交流会



お茶を飲み
ながら

平成20年7月19日（土）午後5時30分よりフロント・スタッフ研修第8期生を迎え、交流会が行われました。始めに衛館長のご挨拶があり、「alaクルーズは変わらなければいけない時期に来ています。ふるしきをできるだけ広げていくのが僕のやり方。ボランティアをされる皆様が誇りをもてるようにしていきたい。」と話されました。参加者は22名。研修を受けられた6名が全員alaクルーズに入会しました。食事の後、茶話会へと移行し、シュークリームとアイスコーヒーを手に和気あいあいの座談会となりました。研修を終えたばかりの8期生の方は、四日間の研修の大変さに驚きながらもやる気に満ちているようでした。フロント・スタッフに携わっている方々も星乃先生との語らいで益々モチベーションが高まったようでした。2時間はあっという間に過ぎ、七夕の出会いのように素敵な時間でした。



交流会に参加して

星乃もと子先生を囲み、創造スタッフルームでの交流会に参加しました。当時の私たちの印象を語って下さる先生の記憶力のよさに驚きました。又、自分の意見をはっきり話すことの出来る新しい仲間と出会い、私たちは、“自身の印象を管理できるように又基本的なルールを正しく理解し、状況に応じた臨機応変な対応ができるように心がけましょう”を、もう一度、考えてみようと思った有意義な交流会でした。(K)



話に花が
咲いてます



金沢視察研修

今年度の事業として、10月25日(土)「金沢芸術村」および「金沢21世紀美術館」への視察研修を行います。芸術村での交流会など見聞を広め、alaクルーズの活動に活かせられたらと思います。

クルーズ

コンサート vol.5

平成21年2月8日(日)虹のホールで開催されます。今回はSJC Jazz Orchestraで、皆さんの耳に心地よいJazzをお届けしようと思います。チケット発売は11月1日を予定しています。ご期待ください。



編集後記

ことの音に みねの松風 かよふらし
いつれのをより しらべそめけむ

文学に親しみやすい芸術の秋の到来です。また、視察にも良い季節となりました。遠方から訪れる方が、まず驚かれるのは、若者の姿を非常によく見かけることだそうです。広い空間、居心地の良いテーブルに椅子、雑誌の閲覧コーナーがあることやパソコンを使用できる場所もあることが魅力の一因なのではないでしょうか。「可児市」の人気スポットとしてますます栄えていきそうです。そして劇場の扉を開いたら、更にワクワクするようなことに出会えるはず。非日常空間を体験できる場所。アーラにはまだまだいろんな可能性がありそうです。そしてalaクルーズにも・・・ (H)

alaクルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414
http://www.kpac.or.jp/alacrews/
Mail : ala-crews@kpac.or.jp

ギャラリー展示企画 心にひびくものたち IX

平成21年2月18日(水)～23日(月)
可児市文化創造センター 美術ロフト



今回の拓本展は最上の品を集め、同時に親しみやすいものを加えて展示をします。観ることの楽しさを知って欲しいと思います。中でも開通褒斜道刻石は、中国漢時代に難工事の完成を記念して屋外に刻まれた書、清時代に手に入れられる以前の貴重な拓本です。重要文化財東大寺西大門の勅額拓本のように、現在では採拓出来なくなった拓本や軸に貼られた北大路魯卿蔵の文字から魯山人旧蔵と知ることのできる、地獄谷中尊の拓本に親しみやすい良寛碑、松本平・庚申像等を加えました。今回は会場が美術ロフトです。大きな拓本を陳列できるので特大の拓本を少し加えようとしています。会場では簡単な拓本の採り方をお見せします。初日と土日には説明会があり、又いつでもご質問にはお答えします。資料も用意します。多くの人に観ていただきたいと思います。



進め! (21) ほんだめし alaクルーズ

